

# わたしたちの町の宝物



毎年1月下旬、消防訓練の日がやってきます。津市一身田町にある専修寺では、お寺や地域の人たち、約100人ものが消防訓練に参加します。寒い時期ですが、消防車もやってきて建物への放水をしたり、建物から避難したり、また、お寺に伝わる大切な文化財を運び出したりする訓練をしています。というのも、専修寺には国宝や重要文化財などに指定された文化財がたくさんあるからです。

2017年11月28日、専修寺の御影堂と如来堂が国宝に指定されました。三重県の建物では初めての指定です。

今から約370年前、大きな火事で境内の建物が燃えてしまいました。数年後、ようやく建物を建て直すことになった時、当時この地域を治めていた津藩主、藤堂高次が土地を寄進し、境内は火事の前の約3倍の広さとなりました。また、江戸から棟梁（注1）を呼び、地元の大工とともに工事が始まりました。最初、建物は東を向いて建てられる予定でしたが、台風が来た時に雨が降り込みやすいといった理由から、南向きに建てられました。こうして、火事から約20年後、1666年に完成した建物が今の御影堂です。

御影堂は、一度に約2,000人が中に入ってお参りできるほど広く、全国にある江戸時代の木造寺院建築物の中で5番目の面積をもつ大きな建物とされています。このように大勢がお参りできる広い空間を確保するために、建物を支える柱の数を減らす工夫がされています。

御影堂が建てられてから約50年後、隣に如来堂が建てられることになりました。御影堂を建てた時のように、津藩からの大きな支援は望めなかったため、お寺の関係者や信者が県内外から寄付を募りました。しかし、思うように資金が集まらず、工事が始まってから、木材や屋根瓦の代金が払えないこともあったようです。また、もうすぐ完成するという時には、御影堂、如来堂以外の建物の大半が火事で燃えてしまうということもありました。このように色々な困難を乗り越えて、如来堂が完成したのは工事が始まってから約30年後の1748年のことでした。

## 三重県初の国宝建造物 専修寺

如来堂は、御影堂に比べて小さい建物ですが、二つの建物の高さを揃え、外から見ると大きさの違いを感じさせない工夫がされています。

御影堂と如来堂は、江戸時代の最先端の建築技術で建てられた、我が国の寺院建築を代表する建物の一つです。このような素晴らしい建物が、この三重で現代まで守り伝えられてきたのです。

木造の建物にとって、最も怖いものは火事です。燃え広がれば、約350年間守り伝えられてきたものも、一瞬で失われてしまいます。幾度も

大きな火事を乗り越えて今に伝わる専修寺の建物は、お寺だけでなく一身田町の人々にとっても、大切な宝物です。一身田町の人々は、町の宝物としてだけではなく、我が国の宝物でもある専修寺を守っていくため、消防訓練に参加しているのです。



（注1）棟梁…大工のかしらのこと

### 考えてみよう

- あなたの住んでいる地域で受け継がれている文化や伝統には、どんなものがありますか。お互いに紹介しましょう。
- 一身田町の人々は、どんな思いで、訓練に参加し専修寺を守っているのでしょうか。
- あなたの住んでいる地域で受け継がれている文化や伝統で、あなたが大切にしていきたいものを紹介しましょう。